

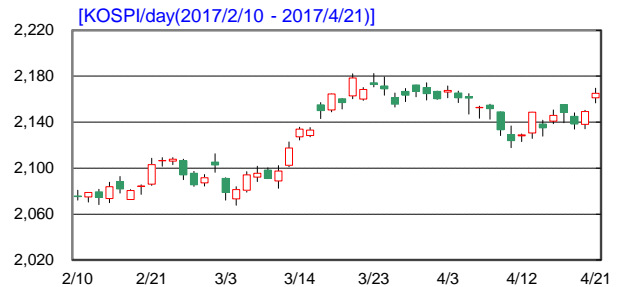


【韓国】 総合指数は週間で1.4%高と4週ぶり反発、地政学的リスク和らぐ

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.4%高と4週ぶりに反発。北朝鮮のミサイル発射が失敗に終わったことから地政学的リスクがある程度和らぐ中、相場はおおむね堅調に推移した。19日に前日の欧米株安を受け下落した以外は、市場の関心が北朝鮮問題から国内企業の1-3期決算や5月9日の大統領選挙にシフトしたことなどを背景として、海外勢を中心にした買いが優勢となった。「ファンダメンタルズの強さを好感した投資家が引きつけられており、相場は上昇基調にある」との株式アナリストの見方も示される中、指数は約3週間ぶりの高値圏で取引を終えた。今週は25-28日にかけて相次ぐ消費者信頼感、1-3月期GDP、鉱工業生産など主要経済指数の発表に注目したい。GDPの市場予想は2.6%増、鉱工業生産の予想は4.4%増。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で1.0%高と4週ぶりに反発、今週は引き続き堅調か

先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で1.0%高と4週ぶりに反発。週前半の原油価格の高止まりと週後半の中央銀行総裁の利下げ検討発言が支援材料となった。ブレント原油価格が週央まで前週末終値をやや下回る水準を維持したことで、株式市場は週明けから買い戻し優勢。指数は18日序盤には前週末比2.4%高の1098.48ドルまで上昇したが、原油価格の下落とともに売りに押され、前週末終値付近まで値を崩した。その後、ナビウリナ中銀総裁が28日の政策決定会合で利下げを検討する可能性があると言葉すると、20日後半から急速に値を戻し、翌21日の中盤には1094ドル台まで上昇。ただ、後半はフランスの大統領選挙を控えた持ち高調整の売りが強まり、1084.17ドルと前日比ほぼ横ばいで週の取引を終了した。今週は引き続き堅調か。

▼指数チャート



【ベトナム】 VN 指数は週間で0.8%安と続落、今週は自律反発の可能性も

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.8%安と続落。前週後半に続落した指数は、先週もこうした流れを引き継ぎ、総じて軟調な展開となった。週明けにプラス圏で寄り付き、前場に721.78ポイントまで上昇したが、後場にはマイナス圏に沈み、安値引け。18日に705.55ポイントまで売り込まれた後に、週央に716ポイント台まで値を戻したが、前週末終値である718.45ポイントをその後一度も超えることなく、712.41ポイントで週の取引を終えた。主力銘柄の多くが弱含み、売買代金は前週比で8.7%減少。個別では、指数ウェイト1位のビナムミルクや、不動産のノブランドが反発しVN指数を支えたが、前週に上昇したファロス建設が5.8%安と大幅反落となり、VN指数を押し下げた。今週は売られすぎの反動から自律反発の可能性もあるか。

▼指数チャート

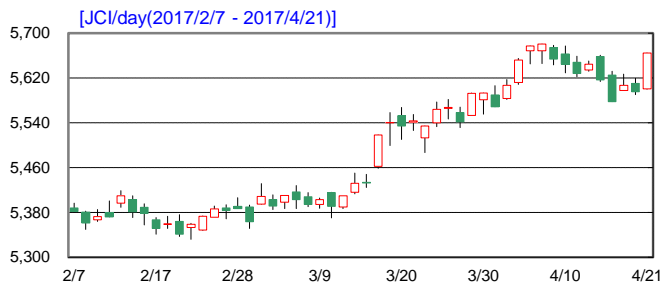


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.9%高、ジャカルタ特別州知事選で現職が落選

ジャカルタ総合指数は4日間の取引で0.9%高と反発。週末の値上がりで上昇幅を押し上げた。週初の17日は3月の輸出が前年同月比23.6%増と市場予想を大幅に上回ったことが買い材料にならず、指数は終値で約2週間ぶりに5600ポイントを割り込んだ。18日は反発したものの、ジャカルタ特別州知事選の決戦投票による休場を挟んだ20日は、外国人投資家寄りとしてきた現職のパスキ・プルナマ氏の落選を嫌気して反落。一方、21日は通信株と消費関連株が買われ、前日比1.2%値上がりした。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因に左右される展開か。24日はモハメッド昇天祭の祝日で休場。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.9%安、今週は3月のCPI上昇率に期待

ストレーツタイムズ指数は週間で0.9%安と続落。前半の値下がり響いた。週初の17日は前週末から下げ止まらず、指数は終値で前営業日比1.0%安と続落。3月の非石油地場輸出は前年同月比16.5%増と市場予想から上振れしたが補えなかった。その後もじりじりと下値を広げ19日まで3日続落したものの、20日に反動が出て買われると、21日も小幅ながら続伸して引けた。今週は24日の3月のCPIに続き、26日に鉱工業生産、28日に銀行融資残高が発表される予定。前年同月比のCPI上昇率は14年8月以来の高水準となった前月並みを維持するとの見通しで、株式相場への追い風となるか期待される。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET指数は 1.2%安、今週は3月の貿易統計に注目

SET指数は週間で1.2%安と6週ぶりに反落。国内の重要イベントが少ない中、不安定な国際情勢を背景に軟調な値動きが続いた。連休明けの17日は、中国の1-3月期のGDPや3月の鉱工業生産などの経済指標が軒並み市場予想から上振れたが、前週末に発表された米国の3月の小売売上高が前月比で2カ月連続のマイナス成長だったことが嫌気されて反落。その後も買い材料に乏しく20日まで4日続落したが、21日は場中に原油価格が小幅ながら上昇したことを好感して買い戻された。今週は24日の3月貿易統計（通関ベース）に続き、28日には3月の鉱工業生産と2月の小売売上高が発表される予定。

▼指数チャート

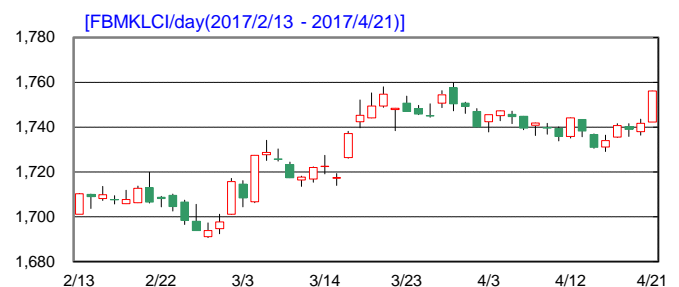


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.4%高、配当再投資制度発表でメイバンク株が急騰

クアラルンプール総合指数は週間で1.4%高と反発。週央の反落を除き堅調だった。週初の17日は中国の1-3月期のGDP成長率が6.9%とわずかながら市場予想を上回ったことを好感して3営業日ぶりに反発すると18日も続伸。ただ、19日に発表された3月のCPI上昇率が前年同月比5.1%と08年11月以来の高い伸び率を示したことでインフレ懸念が強まり、指数は小幅に反落。21日は配当再投資制度の実施を発表したメイバンク株の急騰が株式相場を押し上げた。今週は国内の重要イベントが少なく、米国で発表される税制改革案の内容と、1-3月期のGDPに左右される展開か。24日は新国王即位日のため休場。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。